

大天守と小天守、宇土櫓

ここは、熊本城の3つの主要構造物を一望できるスポットで、左手に宇土櫓、中央に小天守、右手に大天守が見えます。宇都櫓は17世紀初頭の築城当時の建築物ですが、2つの天守は1960年に復元されたものです。これらは、1877年、明治政府に対する武士の反乱、西南戦争の直前に焼失した元の建物に取って代わりました。明らかな大きさの違いに加え、3つの建物は屋根の切妻が異なることで区別されます。大天守の最上階は、出窓上部のうねるような曲線を描く装飾的な切妻が特徴的です。両天守の緩やかな下向きの曲線は、宇都櫓の緩やかな上向きの曲線と対を成しています。かつて石垣に沿って南北に伸びていた「続櫓」と呼ばれる長い低層の建物は、2016年の地震で倒壊しました。